

| 第17回・第2期第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録 | |
|---------------------------------|--|
| 開催日時 | 平成29年3月23日（木）18：30～21：00 |
| 開催場所 | 宝塚市役所3階 特別会議室 |
| 次 第 | 1 開 会 2 議事録 協働のまちづくり促進委員会(第16回・第2期第7回)議事録 3 議 事 (1) 協働の仕組みづくり検討部会からの進捗報告 (2) 協働のマニュアル策定部会からの進捗報告 (3) 平成29年度の活動について 4 その他 5 閉 会 |
| 出席委員 | 久委員長、足立委員、飯室委員、成瀬委員、熊澤委員、久米委員、古泉委員、古村委員、木村委員、中山委員、原田委員、檜垣委員、石谷委員、加藤委員、高松委員、立花委員、土屋委員 |
| 開催形態 | 公開（傍聴人2） |

1 開会

第17回・第2期第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は17人、欠席者は2人であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2人であることを報告した。

2 議事録

協働のまちづくり促進委員会(第16回・第2期第7回)議事録については、修正等の意見がなく、議事録（案）をホームページに掲載することを委員が了承した。

3 議事

(1) 協働の仕組みづくり検討部会からの進捗報告

現在、まちづくり協議会運営のためのガイドライン策定に向けて、作業を行っている作業班から、最終の進捗状況報告と前回から修正のあったガイドライン案が提示された。その後、意見交換が行われた。

ア 地図がなくなったのはなぜか。

イ 地図は、人それぞれいろんな見方があり、誰もが納得できる地図は作ることができない。地図を掲載するといろんな議論が出てしまうこと、また、メインは地図ではないため、ガイドラインには、正式名称と愛称を表記したリストを掲載することにした。

地図は、ポータルサイトに掲載されている。

ウ まちづくり協議会代表者交流会に出席した人から、「もう少し時間がほしかった」という声があった。

エ【市】今回は、先般のまちづくり協議会代表者交流会でいただいた意見を作業班で話し合い、その内容を一覧表にまとめた。ご意見に対する回答（一覧表）については、各まちづくり協議会の代表者宛て、送付予定である。次回からは、もう少し議論できる場を持てたらと思っている。

オ やはりご意見を伺うと、いろんな捉え方や意見があることがわかる。「チェックしてみよう！」は上から目線である、というご指摘もいただいた。

カ【会長意見】このガイドライン案で進めてよいか。

→作業班が提示した一覧表の内容を反映させたガイドライン案をもって、校正に入るといことで委員の了承を得た。

(2) 協働のマニュアル検討部会からの進捗報告

現在、事例集策定に向けて、作業を行っている作業班から、進捗状況の報告があった。

また、現在、作業班の人数が少ないため、改めてメンバー募集を案内した。

その後、意見交換が行われた。

ア【会長意見】事例集を策定するとなれば、若い市職員の協力が必要である。庁内へ呼びかけを行ってほしい。インタビューへ職員も付き添ってもらえたら良いのでは。また、写真を撮ることが得意な人を募集するなどでも良いだろう。

イ 事例の紹介で終わるだけでなく、今後に活かされるような意味のある事例集ができれば良いと思う。

ウ【会長意見】まずは、しっかりインタビューするのが良いと思う。インタビューを通して、共通した何かを見つけることができると思う。

エ 今年の「宝塚市協働の指針職員研修会」でのワークショップで市職員と話し合っている中で、共通して見えてきたのは「協働は難しくない」ということだった。事例集でも、「協働は難しくない」ということを表現できれば良いと思う。

オ 「市民と市民の協働」、「市民と行政の協働」、「行政と行政の協働」など、いろんなパターンがあれば良い。

カ 人と人が関わり合うため、協働の過程の中で「どのような課題があり、どのように乗り越えたのか」という記事があっても良いのでは。

キ【会長意見】『宝塚市協働の指針』にある「協働の基本的な取り組みの流れ」（P5）のストーリーに沿って展開しても良いのではないかと。協働は「自転車」と同じである。最初の走り初めは大変だが、車輪が回り出したら楽になる。

ク 別にインタビュアーと執筆者は同じでなくても良いのではないかと。

ケ 図が多い事例集が良いのでは。

コ【会長意見】時間をかけて議論してほしい。そして、たくさんの人に参加して事例集を作してほしい。また、改めて、事務局からメンバー募集のお声かけもあると思う。

(3) 平成29年度の活動について

資料に基づき、事務局から活動案の説明を行った。その後、意見交換が行われた。

ア 「まちづくり計画」の見直しを視野に入れて、とはどういうことか。どのように進めていくのか。

イ【市】平成30年度から「まちづくり計画」の見直しを行う予定である。どのように見直ししていくかをまちづくり協議会、促進委員会、行政の三者で検討していけたらと考えている。また、見直しするにあたり、「まちづくり計画」に盛り込む内容は、全

まちづくり協議会で共通した項目を入れていきたい。約10年前の計画策定の際は、「地域がすること」「地域と行政が協働ですること」「行政がすること」を決めていただいた。しかし、「行政がすること」を地域の方に決めていただいたとしても、市の予算がなければ、実行できない。見直しについて、何を盛り込むのか等、相談させてもらえたらと思っている。

ウ【会長意見】「地域版」と「行政版」で切り分けて策定するのが望ましい。

エ 市の予算の関係等があるため、「第6次宝塚市総合計画」と「まちづくり計画」はリンクして作っていかないといけない。

また、この委員会と行政の関係を整理し、もう一度考える必要がある。『宝塚市協働の指針』のP6には、委員会の設置と役割が書かれている。しかし、設置されて以降、市からは一度も諮問がなかった。前回、政策推進課から事後報告（無作為抽出による審議会等の公募委員候補者登録制度）があったが、本来であれば、制度ができる前にこの委員会で議論し、協働で作るものではなかったのか。何のための「協働のまちづくり促進委員会」なのか。流れの整理をしないと、委員会の意味がないのでは。

オ【会長意見】5月の全体会で「作業をする委員会になっていませんか」という投げかけを行い、委員会の役割について、もう一度考えていけたらと思う。

カ【市】「まちづくり計画」と「第6次宝塚市総合計画」はリンクさせていきたい。また、たしかに現在に至るまで市から諮問がなかったのは、事実である。今後の検討事項として、庁内に委員会のことをより広めていけるよう改善をしていきたい。また、前回、政策推進課からの説明があったが、決定後の事後報告ではなく、ご意見を伺いたいと思い、説明を行ったものである。説明不足であったことと、説明時期が遅くなったことをお詫びしたい。

→平成29年度については、事務局案のとおり活動していくことになった。また、会議開催日程については、別途調整を行い、決定することになった。

4 その他

事務局より、平成29年4月22日（土）、23日（日）に開催予定の「第25回花と緑のフェスティバル」について、プロジェクトチーム会議の開催結果と、当日のブース内容について説明及び案内を行った。

5 閉会